

(8) 具同小学校

学 校 長 宮川 成也
校内研究代表者 松浦 愛

1. 研究主題 「安心できる学級・学校づくり」 ～生徒指導の三機能を意識して～

2. 主題設定の理由

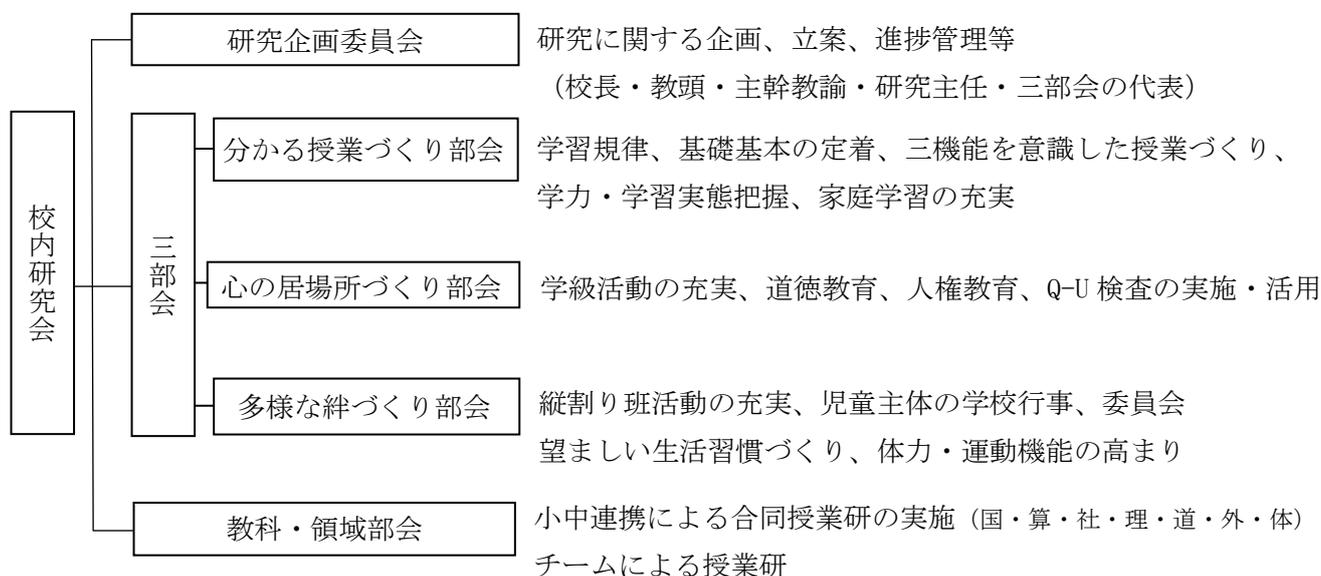
本校は西部管内小学校で最も児童数・教職員数が多い学校である。児童の実態からすると、家庭的な背景を抱える児童や発達障害等の特性から特別な支援が必要な児童が多く在籍しており、生徒指導や特別支援教育等に力点を置く必要がある学校である。一方、教職員の実態からすると、本年度も新規採用教員が2名配置され、採用10年以下の教員が約半数を占めており、若年教員の育成に力点を置く必要がある学校でもある。児童・教職員の実態や数年来の教育実践を総括してみると、ある一定の落ち着いた雰囲気を保ちながらある程度の安定的な学校運営ができてきているものの、学級経営や授業づくりにおける学級間のばらつきがあるということは否めないのが現実である。

平成27年度より研究主題を「自ら課題をつかみ 思考し 表現し合う授業づくり」と設定し、単元デザイン・授業デザインの創造をキーワードに、総合的な学習の時間や生活科、算数科、国語科、体育科において、新学習指導要領の趣旨に沿った探究的な学習を意識した授業づくりに取り組んできた。生活指導においては、従前より「5あ（挨拶・安全・後始末・集まり・遊び）」を合言葉に、教職員間で共通理解を図りながら学校全体で取り組んできた。

今年度は、これまでの研究実践をベースに、教職員が学級経営や授業づくり等について話し合いながら、組織として統一感を持って生徒指導の三機能を意識した授業や特別活動等に取り組んでいく。児童が自己存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、自己指導能力を高めていくことができるよう生徒指導の三機能を働かせた授業づくり、よりよい学級・学校になるために子どもたちが主体的に活動できる場を設定し、安心できる学級・学校づくりを目指していく。

3. 研究の進め方と方法

(1) 研究体制



(2) 学校活性化・安定化研究事業

「活性化」…児童主体の活動の場や機会を多く取り入れること、

「安定化」…組織として統一感を持った取組にすること

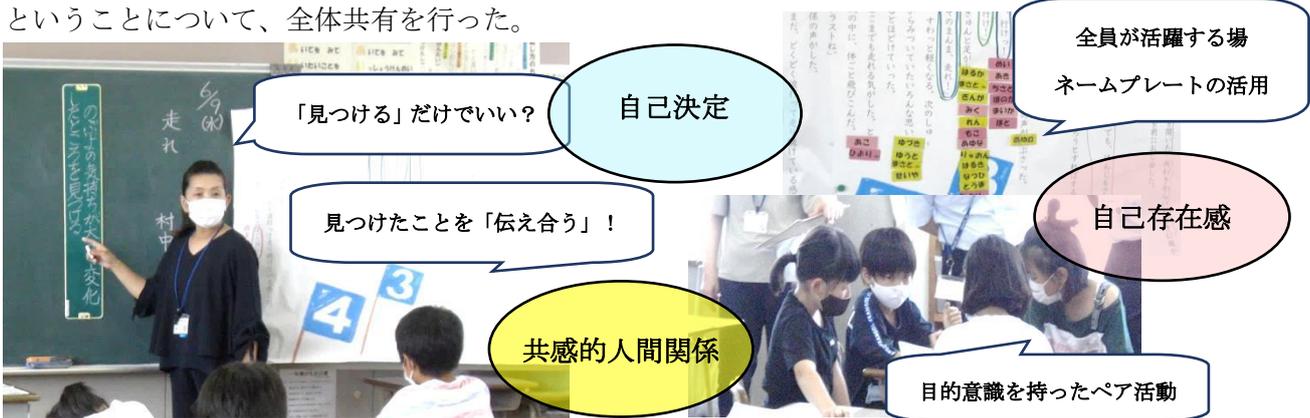
取組の2本柱 (1) 生徒指導の三機能を働かせた授業づくり (2) 児童主体の学級・学校づくり

4. 今年度の主な取組

(1) 生徒指導の三機能を意識した授業づくり

①研究授業〔第4学年：国語科〕

生徒指導の三機能が具体的に授業の中のどの場面で働いているのか、また意図的に働かせているのかということについて、全体共有を行った。

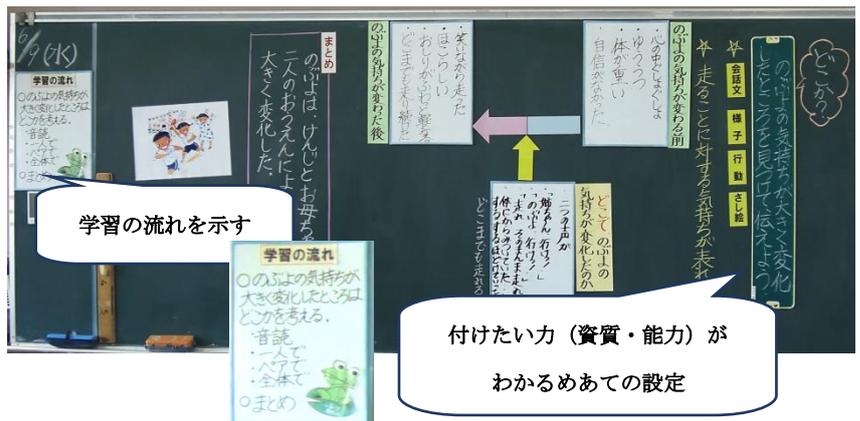


②具同小スタンダードの見直し

「どの教員も取り組みやすいもの」

「三機能を意識したもの」

↓
「学習の流れを示す」
「付きたい力（資質・能力）がわかるめあてを設定する」



(2) 児童主体の学級・学校づくり

①学級活動の内容や学習過程について共通理解

学活（1）…児童主体で集団の合意形成を図る取組

学活（2）（3）…教師主導で、個人の意思決定をする取組

今年度は児童主体で行う学活（1）に重点を置いた取組

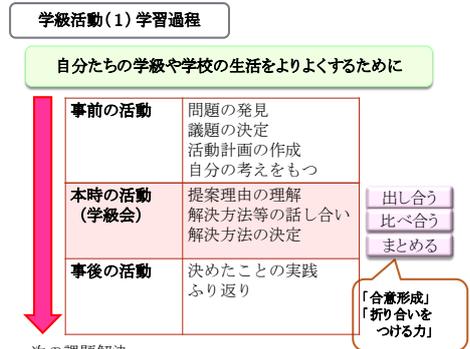
②研究授業〔第6学年：学活（1）〕

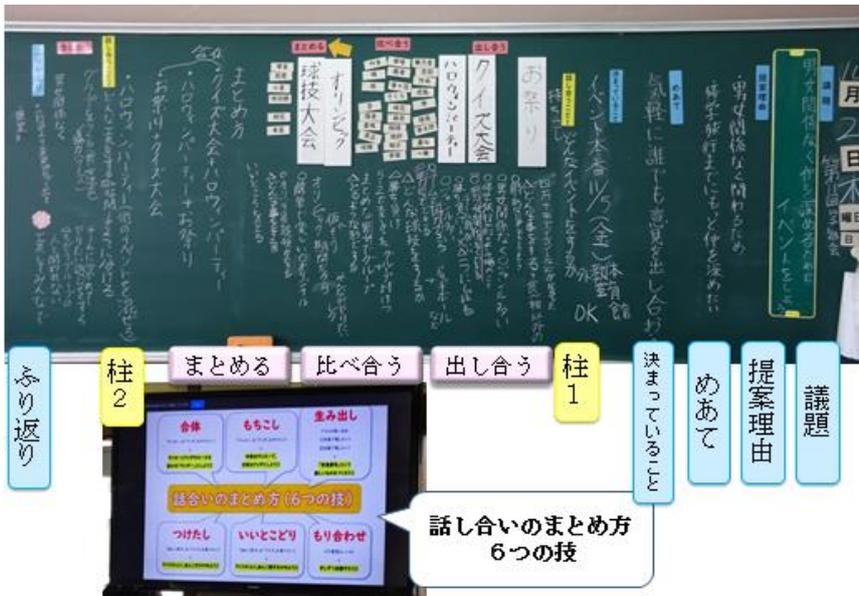
議題「男女関係なく、仲を深めるためにイベントをしよう」

事前の活動…計画委員が活動計画を作成、学級会ノートに一人ひとりが自分の考えを書く。

本時の活動…提案理由に沿って話し合い、折り合いをつけながら合意形成。話し合い全てを子どもたちに任せるのではなく、話し合いが停滞した場合には、教師が適切に介入する。

事後の活動…学級会で決まったことは実践し、ふり返りを各学級で行い、学活（1）の取組を学級の歩みとして掲示し、自己や学級の成長をふり返る。

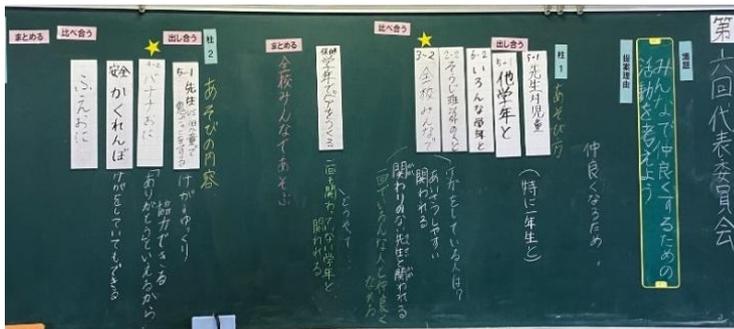




③学校行事・児童会活動（代表委員会）

春の遠足 …縦割り班レクを6年生が中心となり計画、準備、実施、ふり返り

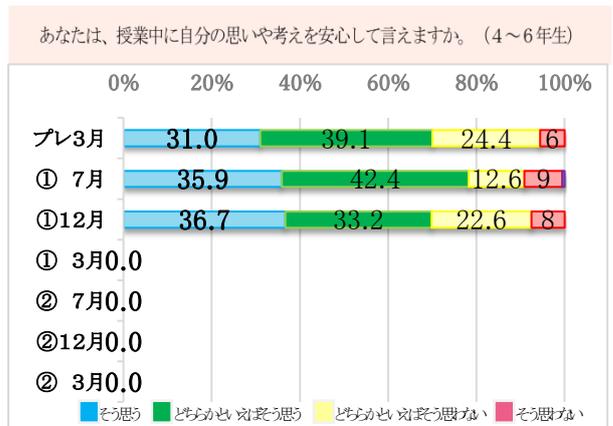
代表委員会 …2学期より学活（1）の流れに変更し、話し合いで決定した全校レクを実施



5. 今年度の成果と課題【成果：○ 課題：●】

- 今年度、学級をよりよくするための学活（1）の取り組み方を学び、全学級で実践することができた。また、児童主体の取組が増え、教職員・児童の意識が変わりつつある。
- 11月の学校生活アンケートにおいては、「学校が楽しい」と94%の児童が肯定的に回答し、「新たな不登校による年間30日以上欠席」については、今現在、0人となっている。

●研究指定にかかるアンケート結果（4～6年）の、「あなたは、授業中に自分の思いや考えを安心して言えますか」の項目において、12月は強肯定が7月より0.8%向上したが、弱肯定評価の児童が弱否定の方へと流れてしまった。



- 【取組を引き続き行う上で大切にすること】
- ・子ども同士がかかわり合い、理解し合える場を具体的に設定する。
 - ・聞く・話すことを大切にし、友だちの思いを聞き、自分の思いを話すことに、全学年でこだわっていく。
 - ・子どもたちの行動や活動を認め、褒めながら、価値付ける。これからも「安心できる学級・学校づくり」をめざし、児童一人ひとりに活躍の場や友だちとかわり合う場の設定をしながら学級経営や授業づくり等について話し合い、取組を進めていく。